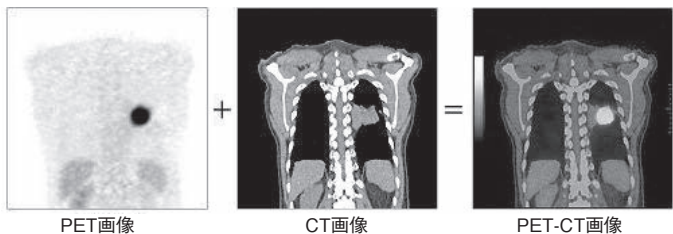


あらゆる癌の早期発見に PET・CT検査が有効です

「最近、よく耳にするけれどPETって何？」と
言う方のために、PET・CT検査検査について話し
てもらった。

ブドウ糖が全身の癌を知らせる?

体の細胞はブドウ糖を栄養源にしており、癌細胞は正常な細胞よりその消費量は3〜8倍。第二次世界大戦前のドイツで発見されたこの性質を利用して、PET検査がアメリカで開発されたのが1980年代のこと。ブドウ糖に放射線を出す元素を組み合わせたフルオロデオキシグルコース(FDG)という放射性核種を静脈内注射し、ブドウ糖を多量に取り込む癌細胞を頭から足先まで検出します。このPET検査では癌細胞の位置が判明し、さらにCT撮影と融合させて、大きさや状態を詳細に把握できるのがPET・CT装置です。日本での普及は1990年代に入ってからで、PET・CT装置を設置している医療機関は全国で約200カ所、近畿では35カ所程です。



ちなみにアメリカでは今や「PET fact」と言われるように、がんの疑いがあれば、まずPET・CT検査を行って全身の癌細胞を洗い出し、次に見つかった部位を深く検査するというのが一般的です。日本では、全身の7〜8mmの癌細胞を見つけ出すことのできる、非常に合理的な方法であるにもかかわらず、健康保険適用外である場合もあり、アメリカほど普及していません。認定医の私としてはとても「まどろっこしい」思いをしています。

リスクは? だれでも受けられるの?

FDGの放射量は胃癌検査のレントゲン検査時とほぼ同じ程度で、半減期も短く、2時間で1/2に減り、日常的には問題はありませんが、妊産婦や授乳中の方は受けることはできません。また、検査した日は小さなお子さんに触れることもお勧めしません。また、血糖値が180mg/dlを超えていると小さな癌細胞の検出が難しくなりますが、大きな癌細胞なら血糖値がそれ以上高くても発見できますので、転移を心配されている方などは主治医と相談してみてください。

他の検査で癌細胞が見つからなかったのに!

PET・CT検査で思わぬところに癌細胞が見つかるケースは多いです。部位的には肺や乳房、特に脾臓は本当によく見える! 逆に体外に排出されるFDGが集まる腎臓や膀胱は判別が難しい。また、胃や腸は蠕動運動を行っているために細胞のブドウ糖消費量が高く、わかりにくい場合がありますが、1回の撮影で疑わしい時はさらに続けてもう1回撮影し精度を高めます。

この検査をしていると、私たちが「ダブルキャンサー」と呼ぶ、2カ所に同時に癌細胞が発生している患者さんによく出会います。大腸癌の手術前にPET・CT撮影すると、甲状腺にも癌があった、大腸がんの疑いのある患者さんに乳がんも見つかった。他の検査ではどうしても上半身だけ、下半身だけと検査が集中しがちですが、PET・CT検査なら全身が見えるために発見が早くなるのです。現代の医学では癌は早期発見で100%治療が可能です。こんなこと聞いたら恥ずかしいかな? と思わずに、何でも聞いて、早期発見に役立ててください。

PET-CT 検査の流れ

■完全予約制です

現在かかっている医療機関から予約、もしくは直接電話を予約を。

☎(958)1000 「PET-CT 検査申し込み」と伝えれば係につながります

■検査当日

1受付 検査予約30分前に1階総合案内所で受付、その後へ地下1階PET-CT 検査受付へ

2問診〜更衣 看護師から検査説明・問診を受け、血糖値測定を行い、検査着に着替え水400ccを飲む

3FDG注射

4待機 全身に行きわたるまで約1時間安静待機

5PET-CT 装置による撮影 時間は約30分

6終了

受付から検査終了まで約3時間 結果説明は後日(検査日に予約)、他の医療機関からの紹介の方は、紹介元の医療機関で結果説明をうけていただきます。